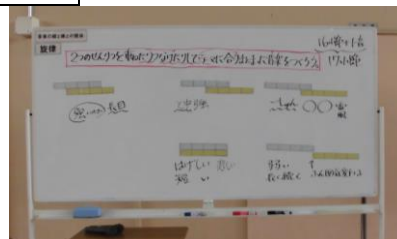


小学校1・2・6・7部会 会場:浜松市立三方原小学校 授業発表者:村上美聡先生

小学6年生「和音のひびきや音の重なりを感じ取ろう」

授業者の村上美聡先生は、子供たちが今回の題材を通して「和音のひびき」を学びながら主体的に「旋律づくり」をしていけるよう、題材構想を工夫されてきました。毎時間、コンテンツを活用し、和音の移り変わりを確かめながらリコーダーや鍵盤ハーモニカ、歌で実際に演奏していくことで、本時に向けて和音の響きの理解がより深まっていたように感じました。



授業の導入では、前時でつくった旋律について振り返りました。つなげた2つの旋律の重なり方を表現した図は、視覚的に分かりやすく、重なりによって感じ方が違うことについて子供たちが言葉で表現していました。旋律づくりの活動では、ペアになって取り組みました。コンテンツだけに留まるのではなく、鍵盤ハーモニカで音を鳴らして演奏することで、自分たちの考えたテーマに合うか積極的に考えている様子が見られました。全体交

流の場では、タブレット型端末を通して、重ね方やつなげ方を確かめました。活動中に子供たちの取り組みの様子を紹介したことで、何度もやり直して工夫している子供もいました。

研究協議では、「テーマを意識して重なりを工夫できていた」「コンテンツで作った後、生の音で確認できていた」「タブレットの活用と鍵盤ハーモニカでの試奏を組み合わせることで見通しをもった活動ができていた」などの意見が出されました。ICT を活用した音楽づくりの授業について、今後の可能性を大きく感じた研修になりました。

小学校3・4・5・8部会 会場:浜松市立新原小学校 授業発表者:足立沢子先生

小学1年生「がっきとなかよくなろう」

今回の授業は、絵や擬音語に合うように打楽器を選び、音を音楽にするという活動でした。授業者の足立沢子先生は、子供たちの自由な感性を大切にしながら、友達と音をつなげることで音楽として表現する楽しさを味わわせたいという思いをもって、題材構想を工夫されてきました。活動は3人グループで行われ、カードを選ぶ自由やそれに合う楽器を選ぶ自由、演奏する順番を変えられるという自由があることで、子供たちの思いや新たな発想を引き出すことができているように感じました。



研究協議では、「反復」や「呼びかけとこたえ」などの音楽の要素を教師が先に提示し、音楽づくりにその要素を取り入れる指導をすべきか、という点で協議され、今日の授業では、そのような提示がなかったことで



自由な発想が生まれ、よかったという意見が出されました。また、「思いをもつ」という姿をどのように見とり、どのように評価するのかという点についても協議がされ、なぜそうしたのかという理由が「思いをもつことができた」という評価につながるという意見が出されました。今日のような、子供たちの豊かな発想があふれる授業を今後も目指していきたいと思います。

中学校 会場:蜷塚中学校 授業発表者:柏原 樹里 先生

校内合唱コンクール本番を数日後に控えた中学校3年生の授業を参観し、合唱指導の在り方や進め方について意見を交換することができました。柏原先生の合唱指導の中で、生徒に提示していた目標は「合唱の魅力を味わい、音楽のよさや美しさを味わおう」でした。合唱曲はアンデルセン作詞、松下耕作曲の「一詩人の最後の歌」に取り組んでおり、非常に難易度の高い楽曲でしたが、生徒一人一人がよりよい合唱にするため、精一杯取り組む姿が印象的でした。

本時のめあては「曲の魅力が伝わる歌い方を極めよう」となっており、生徒の意見をもとに決定した聴かせどころを重点的に練習していました。曲の後半部分を聴かせどころとし、その部分を実際に歌いながら強弱記号と曲想との関わり、他声部との関わりに注目させ、表現方法を追求する姿が見られました。また、練習の中では、クロムブックを使用して一人一人録音をすることで表現したいことができているか確認しており、個別最適な学びの実現に向けて取り組んでいました。



授業後のグループワークでは教師の発問や支援の様子、生徒のあらわれについて意見交換を行いました。生徒一人一人が曲と向き合い表現について主体的に話し合う姿や、生徒が思いを深められるような教員の声かけが充実していたと多くの意見が挙がりました。一方で、合唱指導の際の作曲者の意図を理解した表現方法や伴走者としての関わり方については難しさを感じる声も多く挙がりましたが、多くの先生方と意見交換を行うことで、今後の実践につながる気付きを得ることができました。